

先月までの為替相場のレビューと、
今後の注目の経済指標やイベントを元に、為替相場の展望をお届けします。

2014/1/06

特殊要因剥落で欧州通貨高は一服へ？

通貨ペア	基調		ページ数
ユーロ/円	➡	落ち着きには時間を要する 予想レンジ: 138.500~146.000円	2-3
ユーロ/ドル	↘	ドル高がやや優勢に 予想レンジ: 1.33500~1.38500ドル	4-5
ポンド/円	➡	ポンド主体の動きは期待しにくい？ 予想レンジ: 165.000 ~ 176.000 円	6-7
ポンド/ドル	➡	米ドル主導で方向感を模索 予想レンジ: 1.60000 ~ 1.68000 ドル	8-9

※通貨ペアをクリックすると、そのページにジャンプします



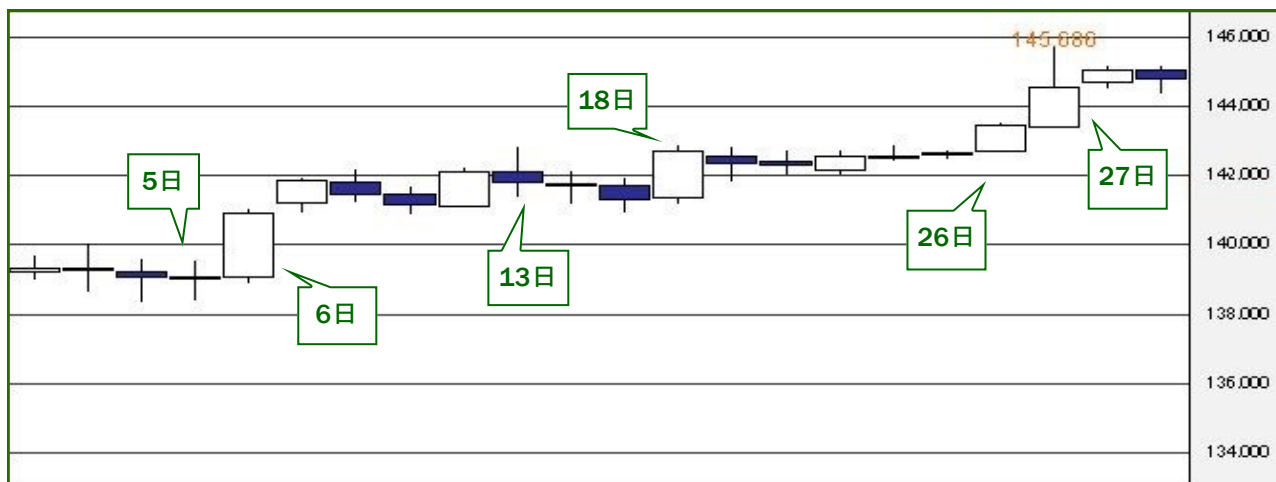
本レポートは、投資判断の参考となる情報の提供を目的としたものであり、投資勧誘を目的として提供するものではありません。投資方針や時期選択等の最終決定はご自身で判断されますようお願いいたします。また、本レポートに記載された意見や予測等は、今後予告なしに変更されることがございます。なお、本レポートにより利用者の皆様に生じたいかなる損害についても、株式会社外為どっとコム総合研究所ならびに株式会社外為どっとコムは一切の責任を負いかねますことをご了承願います。

Copyright©2014 Gaitame.com Research Institute Ltd. All Rights Reserved. www.gaitamesk.com

EUR/JPY

ユーロ/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	139.245円	145.686円	138.420円	144.822円



5日	米新規失業保険申請件数や米第3四半期国内総生産(GDP)・改定値の好結果を受けてユーロ/ドルが下落すると138.40円台まで連れ安した。しかし、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が定例会見で「理事会では、マイナス金利の導入をめぐり『簡単な議論』が行われたものの、追加利下げの提案はなかった」「長期資金供給オペ(LTRO)などに踏み切る場合、その資金が景気支援のために利用されると確信できるまで実施する事はない」などと発言した事に加え、ECBスタッフ予測で2014年のGDP成長率の見通しを+1.1%から上方修正(従来+1.0%)した事から一時139.50円台へ反発した。ただ、ECBの追加緩和期待が萎んだ事で、欧州株が下落したため139.00円台まで押し戻されるなど伸び悩んだ。
6日	米11月雇用統計の好結果が発表されると140円台へ上昇したが、ユーロ/ドルが一時急落したためやや伸び悩む場面も見られた。しかし、米雇用統計の強い結果を好感してNYダウ平均が16000ドルを回復すると、円売りが活発化。ユーロ/円は141.033円まで上値を伸ばした。
13日	日経平均株価が上昇する中、142.819円まで上伸したが、買い一巡後は週末を控えたポジション調整と見られる売りに押されて弱含んだ。その後も欧州株が冴えない展開となった事から軟調推移が続く、141.420円まで反落した。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)が量的緩和の一部縮小を発表。これを受けてドル/円が上昇した一方、ユーロ/ドルが急落したため、発表直後のユーロ/円は乱高下した。しかし、FOMC声明でフォワードガイダンス(金融政策の先行きを示す指針)がゼロ金利長期化方向に修正された事などを好感してNYダウ平均が大幅に上昇すると142.892円まで上昇した。
26日	日本経済新聞が朝刊1面で「安倍首相、6月に新成長戦略を発表」と報じた事などから株高期待とともに円売りが先行すると143円台に上昇。さらに、欧州市場が休場の薄商いの中でユーロ買いが入ると一段と上値を伸ばし、143.50円台まで上昇した。
27日	ドル/円が一時105円台に上昇した円安の動きにつれて買いが先行。その後、ドル/円は反落したものの、下落していた日経平均株価が持ち直した事などからユーロ買いが継続すると144円台乗せとなった。さらに、連休明けの欧州勢からユーロ買いが持込まれると一気に145.686円の高値まで上伸。トルコの政情不安(汚職事件に絡む閣僚辞任が相次ぐ)を受けてユーロ買い・トルコリラ売りが活発化した事がユーロ全面高につながった模様。

EUR/JPY

今月のポイント

12月のユーロ/円相場は138.420円～145.686円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.0%の上昇（ユーロ高・円安）となった。月足チャートは4カ月連続で陽線を描いており、この間の上昇率は約11.6%に達した。

12月は、欧州中銀（ECB）の追加緩和に対する姿勢が半歩後退したと市場に判断されたほか、米国景気の回復期待が主要国の株価を押し上げる中、リスク・オンの流れが強まった事から、予想以上にユーロ高・円安が進み、27日には5年2カ月ぶりの高値となる145.686円まで上値を伸ばした。なお、年末（決算期末）を控えたユーロ圏のリパトリ（資金回帰）の動きもユーロ高に拍車をかける事になったようだ。ただ、年明け以降は、2日、3日と下落が続き、6日午前の時点で141円台半ばまで、昨年末に付けた高値から4円以上も反落している。年末のリパトリという季節要因が剥落した事が影響したと見られ、12月の上げ幅の半分以上を年始の数日間で失った格好だ。年末年始特有の特殊な動きは、ある程度一巡したと見られるが、9日のECB理事会や10日の米12月雇用統計など、月初に重要イベントが並んでいるため、ユーロ/円はすぐには落ち着きを取り戻せそうにない。ECBの金融政策スタンスは緩和含みではあるものの、足元の域内景気の復調を受けて、市場の追加緩和観測は後退している。理事会後に行われるドラギ総裁の会見が注目されよう。また、12月のリスク・オンムードの広がりや米国の景気回復期待によるところが大きかった。12月雇用統計がそうした期待をさらに高める事ができるか注目される。1月のユーロ/円相場は、しばらくは荒っぽい値動きを見せる公算が大きく、上旬の動きがその後の方向性のカギを握る事になるだろう。（神田）

（予想レンジ：138.500～146.000円）

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

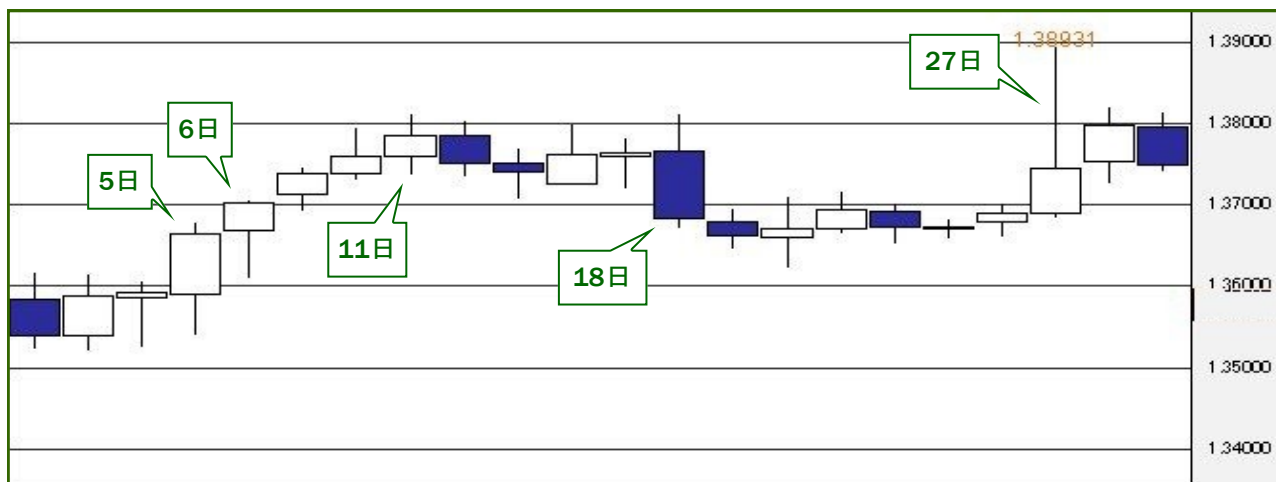
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/6(月)	12月独消費者物価指数・速報	1/15(水)	11月ユーロ圏貿易収支
1/7(火)	12月独雇用統計	1/21(火)	12月独/ユーロ圏ZEW景況感調査
	11月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/8(水)	12月中国貿易収支	1/23(木)	1月独/ユーロ圏PMI製造業・速報
	11月ユーロ圏小売売上高	1/27(月)	12月日本通関ベース貿易収支
	11月ユーロ圏失業率		1月独IFO景況指数
	12月米ADP全国雇用者数	1/30(木)	1月独雇用統計
1/9(木)	欧州中銀金融政策発表		1月独消費者物価指数・速報
1/10(金)	12月米雇用統計	1/31(金)	12月日本全国消費者物価指数
1/14(火)	11月日本経常収支・貿易収支		
	11月ユーロ圏鉱工業生産・季調済		
未定	第4四半期中国GDP		
未定	12月中国鉱工業生産		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

EUR/USD

ユーロ/ドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.35845ドル	1.38931ドル	1.35242ドル	1.37502ドル



5日	米新規失業保険申請件数が29.8万件、米第3四半期国内総生産(GDP)・改定値が前期比年率+3.6%といずれも予想(32.0万件、+3.1%)より強い結果になるとドル高に振れて1.3540ドル台まで下落した。しかし、欧州中銀(ECB)のドラギ総裁が定例会見で「理事会では、マイナス金利の導入をめぐり『簡単な議論』が行われたものの、追加利下げの提案はなかった」「長期資金供給オペ(LTRO)などに踏み切る場合、その資金が景気支援のために利用されると確信できるまで実施する事はない」などと発言するとユーロ高へと反転。ECBスタッフ予測で2014年のGDP成長率の見通しを+1.1%とから上方修正(従来+1.0%)した事もあって1.3670ドル台まで上昇した。
6日	米11月雇用統計で失業率が2008年11月以来の低水準となる7.0%に低下(予想:7.2%)、非農業部門雇用者数は前月比20.3万人増と予想(18.5万人増)を上回った事を受けてドル買いが強まると1.3610ドル台まで急落した。ところが、米雇用統計の結果を好感してNYダウ平均が上昇するとユーロ/円主導で反発。NY市場終盤には、一時急上昇していた米長期金利が低下に転じたため、ドル売りが優勢となり、1.37ドル台を回復した。
11日	オセアニア通貨や資源国通貨に対してユーロ買いが活発化。特段の材料が無い中、ユーロ圏へのリパトリと見られるフロー主導の動きにより、一時1.38ドル台へ上伸した。
18日	米連邦公開市場委員会(FOMC)は政策金利の据え置きを決定。声明で「1月から、住宅ローン担保証券(MBS)の買入れを現在の400億ドルから350億ドルに、長期国債の買入れを450億ドルから400億ドルに縮小する」として予想外の量的緩和縮小を発表するとドル買いが強まり、急落した。同声明で「失業率が6.5%を下回ってからかなりの時間が経過しても、特にインフレ見通しが2.0%を下回り続けている場合、FF金利の誘導目標を0.00から0.25%の範囲で維持する公算」としてフォワードガイダンスを強化(緩和の時間軸延長)した事を受けて、瞬間的に1.3810ドル台まで上昇する(ドル売りが強まる)場面も見られたが、バーナンキFRB議長が「労働市場の伸びが継続するとの自信が増した」などと強気な見解を示したため、再びドル買い(ユーロ売り)へと傾斜し、1.3670ドル台まで大きく反落した。
27日	連休明けの欧州勢が株高を眺めてユーロ買いを持込むと一気に1.38931ドルの高値まで上伸。トルコの政情不安(汚職事件に絡む閣僚辞任が相次ぐ)を受けて、薄商いの中でユーロ買い・トルコリラ売りが活発化した事がユーロ全面高につながったが、買いが一巡すると上げ幅を縮小した。

EUR/USD

今月のポイント

12月のユーロ/ドル相場は1.35242ドル～1.38931ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ユーロ高・ドル安)となった。米連邦公開市場委員会(FOMC)が18日に量的緩和の一部減額を決めたにもかかわらず、ユーロ高・ドル安基調を維持した。欧州中銀(ECB)の追加緩和姿勢が後退した(と受け止められた)事や、世界的な株高基調の中でリスク・オンのムードが広がった事などがユーロ高に寄与したという面もあるが、年末特有のユーロ圏へのリパトリ(資金回帰)が最大のユーロ高要因であったと考えられる。また、来年早々に行われる、ECBによるストレステスト(健全性審査)に備えて、ユーロ圏金融機関が対外資産を売却(してユーロに戻す)する動きも見られたようだ。

ただ、1月に入り、ユーロ/ドルはこうした特殊要因が剥落したため1.35ドル台まで下落しており、早くも12月の上げ幅の大半を失うなど、荒っぽい値動きが目立っている。今後についても、米・ユーロ圏ともに景気は回復基調にあると見られるため、ドル高とユーロ高が綱引きする格好で、明確な方向感が出にくいと考えられる。ただ、そうした中でも、米国は量的緩和の縮小に着手するなど金融緩和からの出口を見据えているという点において、ややドルが優位にあるため、ユーロ/ドルは上値が重い展開が見込まれる。10日の米12月雇用統計や14日の米12月小売売上高、30日の米第4四半期GDP・速報値などの主要経済指標が、米国景気の回復期待を高める事ができるか注目されよう。(神田)

(予想レンジ:1.33500～1.38500ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

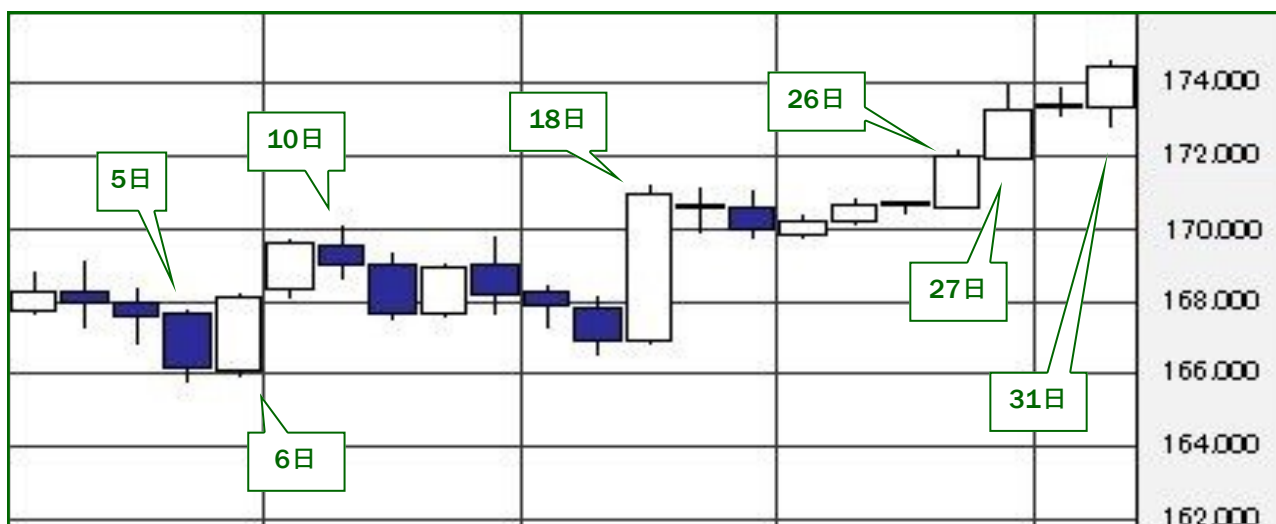
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/6(月)	12月独消費者物価指数・速報	1/17(金)	12月米住宅着工件数
	12月米ISM非製造業景況指数		12月米鉱工業生産
1/7(火)	11月ユーロ圏消費者物価指数・速報	1/21(火)	12月独/ユーロ圏ZEW景況感調査
	11月米貿易収支	1/23(木)	1月独/ユーロ圏PMI製造業・速報
1/8(水)	11月ユーロ圏小売売上高		1月独/ユーロ圏PMIサービス業・速報
	11月ユーロ圏失業率	1/27(月)	1月独IFO景況指数
	12月米ADP全国雇用者数		12月米新築住宅販売件数
	FOMC議事録(12月17・18日)	1/28(火)	12月米耐久財受注
1/9(木)	欧州中銀金融政策発表	1/29(水)	米FOMC政策金利発表
1/10(金)	12月米雇用統計	1/30(木)	1月独雇用統計
1/14(火)	11月ユーロ圏鉱工業生産・季調済		1月独消費者物価指数・速報
	12月米小売売上高		第4四半期米GDP・速報値
1/15(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)	1/31(金)	12月米PCEデフレーター
1/16(木)	12月米消費者物価指数		

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

ポンド/円 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	167.766円	174.571円	165.871円	174.457円



5日	NYダウ平均が下落すると、ポンド/円は165.871円まで値を下げた。なお、英中銀(BOE)の金融政策据え置き発表をしたが、ポンドの動きは限られた。
6日	公的年金の改革を議論する有識者会議の伊藤隆敏座長が「年金積立金管理運用独立行政法人(GPIF)は国内債52%への削減に今すぐ着手を」などと発言。これを受けてGPIFによる株式や外債への投資拡大期待が高まり、株価の上昇とともに円下落が進むとポンド/円は上昇。さらに、米11月雇用統計の好結果を受けてNYダウ平均が大幅に上昇した事が円売りを促し、ポンド/円は一段高となった。
10日	「GPIFが海外インフラファンドへの投資に踏み出す」「GPIFはインフラ投資においてノウハウをもった海外公的年金と提携するようだ」との報道を受けて円売りが優勢となり、ポンド/円は170.058円まで上昇した。ただ、その後は欧州株安を受けて失速した。
18日	英11月雇用統計の好結果を期待して発表前からポンド/円は上昇。英雇用統計においては、失業率3.8%(予想:3.8%、前月:3.9%)、失業保険申請件数推移3.67万件減(予想:3.5万件減、前月:4.17万件減→4.28万件減)、ILO失業率(3カ月)7.4%(予想:7.6%、前月:7.6%)という結果。特にILO失業率が大幅に改善した点を好感してポンド高がさらに進んだ。さらに、NY市場に入るとポンドは一段高。米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明にて量的緩和の縮小開始とフォワードガイダンスの強化を発表するとポンド/円はドル/円の上昇やNY株高などに連れて172.193円まで上昇した。
26日	日本経済新聞が「安倍晋三首相は25日、雇用や農業、医療分野を柱とした新たな成長戦略を来年6月を目途にまとめる方針を表明」と報じたことを受けて、株高期待が拡がると、円安が進行。日経平均株価が高寄り後も大きく上値を伸ばすと上昇が加速し、172.193円まで上昇した。
27日	朝から円が全面的に下落すると、ポンド/円は上昇。日本11月消費者物価指数(除生鮮)が前年比+1.2%と予想(+1.1%)以上だったことも追い風となった。
31日	年末で市場参加者が減少する中、NYダウ平均が史上最高値を更新するなど上昇。これを受けてポンド買いが強まり、174.571円の年初来高値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP / JPY

今月のポイント

12月のポンド/円相場は165.871円～174.571円のレンジで推移し、月間の終値ベースでは約4.0%もの大幅な上昇(ポンド高・円安)となった。

この月のポンド/円は、英国サイドからあまり新しい材料が出なかったことで、ほぼドル/円相場と連動していた。月半ばまでは米国の量的緩和縮小期待や株価の堅調さを背景にドル/円が上昇すると、ポンド/円も上昇。米連邦公開市場委員会(FOMC)後も、堅調な株価を受けて全面的な円安が進む中で、ポンド/円はドル/円以上の上昇となり、2008年10月以来の174.571円まで値を伸ばした。

ポンドは「英中銀(BOE)の追加緩和の可能性後退」を受けて買われやすい状態が続いていたが、この点に関する目新しさが徐々に薄れ、ポンド/円の主体性は漸減してきている。BOEがフォワードガイダンスの修正など、金融政策の変更を行えば、それに応じて大きく動くことも考えられるが、そうしたサプライズでもない限り、今月のポンド/円は外部環境次第の相場になりそうだ。主要国の株高が続けば、上値を伸ばすと考えられる一方、主体性がないがゆえに、利食い売りに市場のスイッチが切り替われば、一時的でも大きく値を下げる場面があってもおかしくない。特に、米国の出口戦略についての市場の関心が高まっている中で、同国の引き締め時期が早まるのではないかと、との観測に繋がるような場面が到来することがあれば、株安→ポンド/円急落、という流れもあり得るだろう。ボラタイルな展開も想定しておきたい。(石川)

(予想レンジ: 165.000～176.000円)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

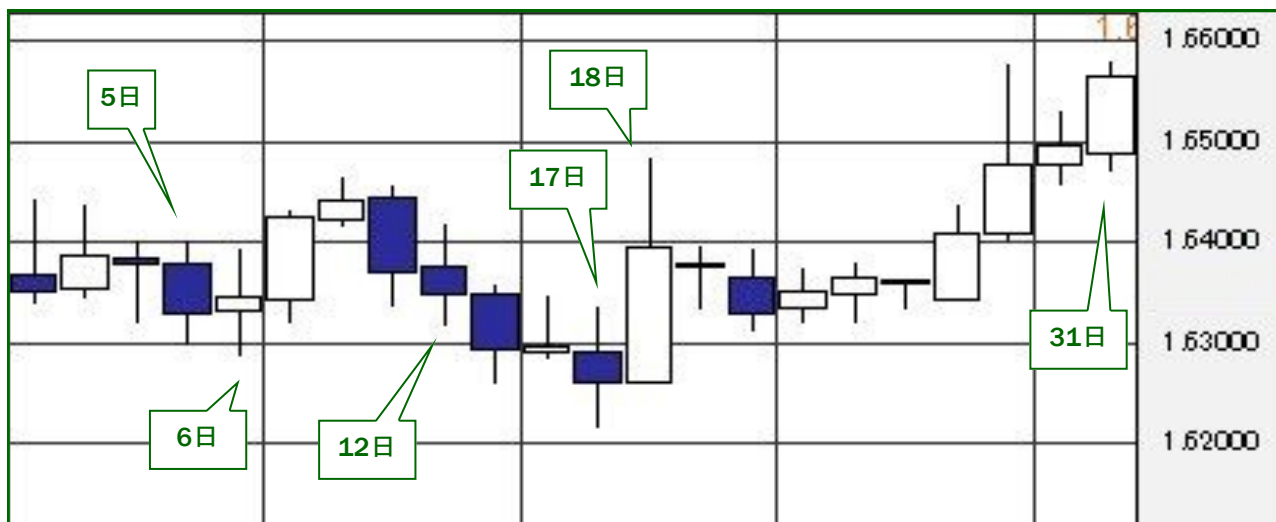
日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(木)	12月英PMI製造業	1/16(木)	11月日本機械受注
	12月米ISM製造業景況指数	1/17(金)	12月英小売売上高指数
1/3(金)	12月英PMI建設業	1/22(水)	日銀金融政策決定会合(21日～発表)
1/6(月)	12月英PMIサービス業		12月英雇用統計
	12月米ISM非製造業景況指数		BOE議事録
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数	1/27(月)	12月日本通関ベース貿易収支
1/9(木)	BOE政策金利発表		日銀金融政策決定会合議事要旨 (12月19日・20日分)
	11月英商品貿易収支	1/28(火)	第4四半期英GDP・速報値
1/10(金)	11月英鉱工業生産	1/29(水)	米FOMC声明
	12月米雇用統計	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値
1/14(火)	11月日本経常収支・貿易収支	1/31(金)	12月日本消費者物価指数
	12月英消費者物価指数		
	12月米小売売上高		12月米小売売上高

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

ポンド/ドル 12月の推移

	始値	高値	安値	終値
四本値	1.63684ドル	1.65782ドル	1.62177ドル	1.65649ドル



5日	英中銀(BOE)の金融政策据え置き発表を受けてポンドは下落。さらに米新規失業保険申請件数が29.8万件と予想(32.0万件)より強い結果となり、米第3四半期国内総生産(GDP)・改定値が前期比年率+3.6%と速報値(+2.8%)から上方修正されたことを受けたドル買いも相まって、ポンド/ドルは値を下げた。
6日	米11月雇用統計で、失業率が2008年11月以来の低水準となる7.0%に低下(予想は7.2%)。非農業部門雇用者数は前月比20.3万人増と予想(18.5万人増)を上回り、2カ月連続で20万人を超える増加幅となった。これを受けてドル買いが強まると、ポンド/ドルは1.62881ドルまで急落。しかし、米雇用統計の好結果を受けてNYダウ先物や欧州株が上昇するとユーロ買い優勢に反転する乱高下となった。
12日	ポンド/円の上昇につれて一時1.64169ドルまで急騰するも、米11月小売売上高が前月比+0.7%、自動車を除いた数値は同+0.4%といずれも市場予想(+0.6%、+0.2%)を上回り、いずれも前月分が上方修正(+0.4%→+0.6%、+0.2%→+0.5%)されたことを受けてドル買い優勢に転じた。
17日	欧州株が軟調に推移する中でポンド/ドルは1.62177ドルまで下落。ただ、その後に米長期金利が低下するとドル売りが強まり、下げ幅を圧縮した。
18日	英11月雇用統計の好結果を期待して発表前からポンド/ドルは上昇。英雇用統計は、失業率3.8%(予想:3.8%、前月:3.9%)、失業保険申請件数推移3.67万件減(予想:3.5万件減、前月:4.17万件減→4.28万件減)、ILO失業率(3カ月)7.4%(予想:7.6%、前月:7.6%)という結果。特にILO失業率が大幅に改善した点を好感してポンド高がさらに進んだ。さらに、NY市場に入るとポンドは一段高。米連邦公開市場委員会(FOMC)が声明にて量的緩和の縮小開始とフォワードガイダンスの強化を発表するとポンド/ドルは乱高下しながら1.64828ドルの高値を付けた。
31日	年末で市場参加者が減少する中、ポンド買いが強まり、1.65782ドルの年初来高値を付けた。

巻頭の特記事項を必ずお読みください。

GBP/USD

今月のポイント

12月のポンド/ドル相場は1.62177ドル～1.65782ドルのレンジで推移し、月間の終値ベースでは約1.2%の上昇(ポンド高・ドル安)となった。

12月のポンド相場は動意に乏しかった。ポンド/円が上昇する一方、米量的緩和縮小期待でドル高圧力が掛かっており、月前半はもみ合い。米量的緩和縮小開始が決定された後も、株高を受けたポンド買いとドル買いに挟まれてなかなか方向感が出なかった。ただ、年末の閑散相場の中で株高→ポンド買いという流れの中でポンド買い優勢で2013年を終えた。

1月のポンド/ドル相場の主役は引き続き米国の材料になるだろう。12月に米連邦公開市場委員会(FOMC)で量的緩和(QE)の規模縮小が決定されたが、目先はこの縮小ペースが加速するかどうか焦点になる。米経済指標を確認しながら、1月FOMCでの縮小加速の可能性を模索し、それを受けて動くドル主導で、ポンド/ドルは方向感を模索する展開になりそうだ。英国の材料については、2013年後半のような「英中銀(BOE)の追加緩和の可能性後退によるポンド高」の効力が徐々に薄れており、BOEがフォワードガイダンスを変更するような大きなサプライズでもない限り、ポンド主体で大きく動くことは考えにくそうだ。(石川)

(予想レンジ: 1.60000～1.68000ドル)

今月の注目材料

※発表日時は予告なく変更される場合があります。※予定一覧は信頼性の高いと思われる情報を元にまとめておりますが、内容の正確性を保証するものではありませんので事前にご留意くださいますようお願いいたします。

日付	経済指標、イベント等	日付	経済指標、イベント等
1/2(木)	12月英PMI製造業	1/15(水)	米地区連銀経済報告(ページブック)
	12月米ISM製造業景況指数	1/16(木)	12月米消費者物価指数
1/3(金)	12月英PMI建設業		1月米フィラデルフィア連銀景況指数
1/6(月)	12月英PMIサービス業	1/17(金)	12月英小売売上高指数
	12月米ISM非製造業景況指数		12月米住宅着工件数
1/8(水)	12月米ADP全国雇用者数		1月米ミシガン大消費者信頼感指数・速報値
	FOMC議事録(12月17・18日)	1/22(水)	12月英雇用統計
1/9(木)	BOE政策金利発表		BOE議事録
	11月英商品貿易収支	1/28(火)	第4四半期英GDP・速報値
1/10(金)	11月英鉱工業生産		12月米耐久財受注
	12月米雇用統計	1/29(水)	米FOMC声明
1/14(火)	12月英消費者物価指数	1/30(木)	第4四半期米GDP・速報値
	12月米小売売上高	1/31(金)	12月米シカゴ購買部協会景気指数

巻頭の特記事項を必ずお読みください。